

平成26年度 第2回 岐阜県農政審議会開催結果

1 日 時：平成26年12月22日（月） 10時00分～11時30分

2 場 所：岐阜県水産会館 1 階大会議室

3 出欠状況

（出席委員）

足立 能夫	（全国農業協同組合連合会岐阜県本部運営委員会会長）
荒井 聡	（岐阜大学応用生物科学部教授）
大野 二三	（岐阜県女性農業経営アドバイザーいきいきネットワーク会長）
岡田 忠敏	（岐阜県農業協同組合中央会会長）
小原 尚	（岐阜県議会農林委員会委員長）
神谷 眞弓子	（東海学院大学学長）
酒向 貞夫	（岐阜県漁業協同組合連合会会長）
鷺見 郁雄	（岐阜県農業会議会長）
竹中 昌子	（岐阜県地域女性団体協議会会長）
道家 晶子	（岐阜市立女子短期大学教授）
朽本 弘明	（岐阜県指導農業士連絡協議会会長）
土川 洋功	（岐阜県青年農業士連絡協議会会長）
土屋 厚子	（岐阜県 J A 女性連絡協議会会長）
野村 誠	（岐阜県市長会監事）
林 智子	（生活協同組合コープぎふ組合員理事）
森本 豊子	（アグリ・エンジョイネット岐阜会長）
渡邊 公夫	（岐阜県町村会副会長）

以上 17 名

（欠席委員）

岩井 豊太郎	（岐阜県農業共済組合連合会会長）
早川 捷也	（一般社団法人岐阜県畜産協会会長）
渡辺 信行	（岐阜県土地改良事業団体連合会会長）

以上 3 名

※50音順

（県）

農 政 部	部長、農業技監
農 政 課	課長、技術総括監、農業研究企画監 笠松競馬支援室長、水産振興室長
検 査 監 督 課	課長
農産物流通課	課長
農 業 経 営 課	課長、担い手対策室長
農 産 園 芸 課	課長、花き振興企画監
畜 産 課	課長、家畜防疫対策監
農 村 振 興 課	課長
農 地 整 備 課	課長

4 新たな「ぎふ農業・農村基本計画」の策定に係る諮問について

5 議事

（1）新たな「ぎふ農業・農村基本計画」の策定方針について

（2）岐阜県農政審議会計画策定部会の設置について

6 議事要旨

別紙のとおり

別 紙

平成26年度 第2回 岐阜県農政審議会議事要旨

1 開 会

2 農政部長あいさつ

- ・ 現行の「ぎふ農業・農村基本計画」は、来年度で5年目となり見直しの時期。
- ・ 今後、新たな計画の策定を進めるにあたって、県から当審議会に諮問をさせていただく。
- ・ 諮問に合わせて、新たな計画の「策定方針」と、実際に調査審議を担う「計画策定部会の設置」の2議案について、ご審議いただくので、よろしくお願いします。

3 諮 問

- 農政部長から農政審議会長へ新たな「ぎふ農業・農村基本計画」の策定について諮問文書を手交。

(荒井会長)

- ・ 今後、岐阜県の農業・農村のあるべき姿を想像しながら、議論を深め、県民の期待に応えられるような答申をしたい。

4 議 事

(1) 議事録署名者の選任

(荒井会長)

- 議事録署名者に鷺見委員と足立委員を指名

(2) 新たな「ぎふ農業・農村基本計画」の策定方針について

(農政課技術総括監)

- 新たな「ぎふ農業・農村基本計画」の策定方針について資料に基づき説明。

(荒井会長)

- ・ 本日の議論のポイントは、現行計画の進捗状況を踏まえ、次にどのような計画を策定していくのか、計画策定部会で審議する基本的な内容の確認を行うこと。

(朽本委員)

- ・米政策、農業改革等、国の農業政策の方向性が決まっていなくて計画を策定していくので、随時、見直しが必要。

(岡田委員)

- ・国の農業政策の転換が一番大きな条件になる。
- ・政府は、成長戦略の中で農業を産業として位置付け、所得の倍増、輸出を1兆円にするという目標掲げており、そこにどう向かっていくのかがひとつ大きな課題。
- ・それを進めるために、42市町村の「人・農地プラン」との整合性も課題。
- ・農地中間管理事業では、中山間地域の農地が取り残された。中山間地域を守るためには農業生産が必要だと考えている。
- ・農地をフル活用できる平場に対し、中山間地域の水田や農業・農村をどう守っていくのか、地方創生の議論でもあるが、そういった面に配慮し、計画を策定してほしい。
- ・担い手は、トマト、イチゴの研修施設など大規模農家向けの支援に加えて、中山間地域の小さな担い手や定年帰農者など、直売所向けの担い手を育成し、地産地消を推進することが地域の活性化につながる。
- ・水田フル活用の中で、飼料用米が推進されているが、畜産振興を含めて、県が水田フル活用をどうしていくのか、中長期的に考えていかないといけない。
- ・6次産業化には、大きな6次産業化と、小さな6次産業化があり、女性を支援し、農村所得の向上を図っていく必要がある。
- ・農協改革には大変不安を抱いている。JAグループも変わらざるを得ない面も出てくると思う。

(足立委員)

- ・農地中間管理事業が、中山間地域では機能していないというのが現状であり、特に中山間地域の農業、農地をどう守っていくか、大変大きな課題であると認識しており、計画策定部会の方にもしっかりと認識して検討してもらいたい。

(渡邊委員)

- ・新規就農者の傾向、県外でのPRについて教えてほしい。

(農業経営課長)

- ・新規就農者は、H19が45名であったが、H25年度は81名と着実に増加している。
H25の内訳は、新規学卒13名、Uターン37名、新規参入31名。
- ・新規学卒者が全体に占める割合は減少傾向、Uターンは横ばい傾向であるのに対し、新規参入者は着実に増加。
- ・作物別では、野菜が60名と全体に占める割合が高く、水稻、果樹、畜産が続く。
- ・地域別では、飛騨が45名と最も多く、次いで岐阜8名、西濃6名。
- ・就農支援センターや農協、市町村とも連携し、東京、大阪など大都市で開催される農業参入フェアにブースを設けて、県内の就農、研修情報をPRするほか、県のHPでもPRしている。

(渡邊委員)

- ・平場の効率が良いところでは、ビジネスして成り立つ可能性があるが、中山間地域では違った農業を考えていかなければならない。
- ・付加価値を求めていけば、あまり広大な面積を必要とせず、生活ができるような農業ができるのではないかと。
- ・いろいろな分野から、若い方が進出してくる可能性があるのも、そういった若者にどうやってPRしていくかが課題。
- ・市町村としては、耕作放棄地になる危険性のある農地を集約して、県と情報を共有して、対策を考えていきたい。

(鷺見委員)

- ・達成困難な取組みの今後の進め方について教えて欲しい。

(農政課長)

- ・達成困難な指標の多くは、農産物の生産に関わるものであり、構造的にしっかりした産地づくりに結びついていないと言える。
- ・担い手を確保し、良いものを作った上で、海外・大都市圏、地産地消などしっかり売っていくことに力を注いでいく必要がある。

(林委員)

- ・所得が十分でない方も含め、いろいろな方が県内の農産物を消費できるようになると良い。

(森本委員)

- ・アグリ・エンジョイネットでも高齢化、担い手不足が進行しており、最大のネックであるので、6次産業化の推進にあたり検討が必要。

(荒井会長)

- ・岐阜県の中で中山間地域の重要性が改めて指摘された。中山間地域対策では、国の政策に加えて、岐阜県独自の対策の検討が必要。岐阜県の特徴は中山間農業であるので、基本計画においても重点的な位置づけが必要。
- ・基本的には、大きな経営が担い手であるが、数としては圧倒的に多い小さな経営をどのように振興するかがもう一つの重要な柱。農村の活性化や地産地消など、消費者の要望に応えるという観点での取組みが必要。

(3) 岐阜県農政審議会計画策定部会の設置について

(農政課技術総括監)

○岐阜県農政審議会計画策定部会の設置について資料に基づいて説明。

(荒井会長)

- ・第2号議案は原案のとおり承認。
- ・今後は、この計画策定部会において、より掘り下げた調査・審議を進めてまいりたい。

(4) その他

(朽本委員)

- ・中山間地域における集落営農の継続は、非常に難しい問題である。農地中間管理事業を含め、しっかりやっていただきたい。
- ・「戦略的な流通・販売」が、農業者の所得に一番結びつく。県の農産物として売っていただけるシステムができれば、自然と収益が上がるので、よろしく願いしたい。

(野村委員)

- ・中山間地域と平坦地域の農業政策が画一的では十分でないので、中山間地域の状況をよく調査してもらい、計画を策定して欲しい。
- ・6次産業化については、観光戦略との連携が必要。
- ・鳥獣被害対策については、林政と連携しながら里山の整備を進めてもらいたい。
- ・全体的にはTPPとか、農業改革とか大きな動きがあるので、計画自体を柔軟にローリングしてもらいたい。

(土川委員)

- ・鉢花業界は景気の低迷に伴い、市場で売れない状況になっており、市場や生花店の弱体化が一因と考えている。
- ・直売所へ出荷した経験から、使う方が誰なのかを考えていかないと農産物が売れていかない。いかにお客さんにわかりやすく説明し、販売するか、考えていかないといけないと思っている。
- ・計画の策定にあたり、農業者個々の意見を集約すれば、農業者に身近な計画ができるのではないかと思う。

(荒井会長)

- ・中山間地域の集落営農の組織化がかなり進んだ要因として、職員の組織化を進める技術の向上があり、これからも技術を磨いて中山間地域の振興を図ってもらいたい。

5 閉 会

(事務局)

○農政部長から閉会の挨拶